

平成 29 年 4 月 4 日

2017 奈良県立医科大学  
春の学生災害ボランティア活動 復興支援活動  
活動報告書

N A R A W i l l  
奈 良 県 立 医 科 大 学  
学生災害ボランティアグループ

1. 活動概要

奈良県立医科大学学生 7 名で、平成 29 年 3 月 9 日（木）から 3 月 11 日（土）の 3 日間、福島県南相馬市内でボランティア活動などを行った。南相馬市小高区では被災者宅の裏山の木の伐採等の力仕事ボランティアを、南相馬市鹿島区では仮設住宅集会所での傾聴ボランティア活動を行った。南相馬市観光協会のボランティアガイドの案内で原町区・鹿島区・小高区を回り、被災地を視察した。南相馬市立総合病院での及川副院長先生の講演を通じて、福島の現状や震災当時の状況、住民の健康問題、放射線などについての講義を受けた。

2. 主な活動

9 日（木）	朝：飛行機にて関西空港から仙台空港へ移動 午後：仮設集会所にて傾聴ボランティア活動(南相馬市鹿島区) 夕方：南相馬市立総合病院副院長 及川友好先生の講演を拝聴
10 日（金）	終日：力仕事ボランティア活動(南相馬市小高区)
11 日（土）	午前：被災地視察（南相馬市観光協会ボランティアガイド） 午後：南相馬ソーラー・アグリパーク 海岸で黙祷（南相馬市原町区北泉海水浴場） 夕方：飛行機にて仙台空港から伊丹空港へ移動

3. 参加学生

看護学科2年：森岡伸子、濱村志保、吉川碧、三阪ひかり

看護学科1年：阿部彩乃、谷口望、吉川佳菜

#### 4. 仮設集会所での傾聴活動

南相馬市鹿島区の寺内塚合仮設住宅の集会所にて傾聴活動を実施した。南相馬市小高区から避難している方々が多い避難所であるが、避難解除指示により自宅や復興住宅へ転居した方が多く、空き家も多く見られた。16名の方々に参加していただき、奈良名物のお菓子とお茶を囲みながら、学生と参加者が交流した。



南相馬市鹿島区仮設集会所。奈良名物のお菓子とお茶を囲みながら、学生と参加者が交流している様子

また、血圧測定、アロママッサージ、ラジオ体操も行った。参加者の中には、仮設住宅から自宅に戻ったが近所に住んでいた人のほとんどが戻って来ておらず、仮設住宅で親しくなった方々に会うために昼間は集会所に遊びに来ている住民の方もおられた。震災から6年という月日が経ち、避難解除も進み、少しずつではあるが復興は進んできているように感じるが、被災した方々が震災前と同じ生活に戻ることができない現実とそれを受け入れて生活を続けていかななくてはいけないという住民の心情も日々変化している。変化していく住民と地域のニーズに合った活動を行う必要があると考える。

#### 5. 南相馬市立総合病院副院長 及川友好先生の講演

「東日本大震災からいろいろ考えてみよう」ということで、まず発災当時の南相馬市立総合病院の状況などスライドを用いながら説明していただいた。病院は原発から20～30km圏内に建っており、屋内退避指示が出ていた。そんな中、病院に残って医療を続けるか家族とともに避難するか、当時働いていた方々はどちらかの選択をしなくてはならなかった。同じ状況になった



南相馬市立総合病院副院長 及川友好先生の講演の様子

らどのような選択をするかという及川先生の問いに、医療従事者としての気持ちと一人の人間としての気持ちとどちらを優先すべきか考えさせられる時間となった。

及川先生は、発災直後も避難するという選択ではなく、病院に残り続け、病院と患者さんを守ってこられた。南相馬市の医療を支えてこられた先生からお話を聞き、医療者としてどのような行動・選択をするべきなのか改めて考えさせられる機会となった。

#### 7. 力仕事ボランティア

昨年7月に避難解除された南相馬市小高区において、力仕事ボランティア活動を実施した。依頼主の住居周辺の雑木を伐採し、ウッドチップパーという機械を用いて粉碎したり様々な工具を使用し短く切ったりして土嚢袋に詰め片付けるという作業を午前、午後を通して行った。

学生だけでなく、一般のボランティアの方もチェーンソーなどを使い共に作業を行った。学生にとっては慣れない作業であったため最初のうちは効率よく進めることができなかったが、ボランティアセンターの方の指導のおかげで午後からは作業効率を向上させることができたように感じた。

震災から6年が経ち、ボランティアを依頼する人のニーズが多様化する中で、できる人ができる時にできることをする、というボランティアの需要がますます高まっているように感じられた。時間の経過とともにボランティア活動に参加する人が減少することや、それに伴う被災地への関心の低下を危惧する意見が出された。



南相馬市小高区の被災者宅の裏山の雑木を伐採し粉砕機で細かくしている様子

## 6. 被災地視察

南相馬市観光協会のボランティアガイドの方に鹿島区（みちのく鹿島球場・奇跡の一本松）→原町区（北泉海水浴場・萱浜）→小高区（井田川地区・大非山）→原町区（雲雀ヶ丘祭場）を案内していただいた。国道6号線を富岡町→大熊町→双葉町→浪江町→南相馬市と北上し、被災地を視察した。津波の高さは空港の柱や数字として理解はしていたものの、実際に海岸から2kmの場所にあるみちのく鹿島球場のフェンスの高さのところまで津波が押し寄せ、バックネットを必死でよじ登れた人だけが助かったという話や当時の状況など震災直後に撮られた写真と現在との比較をしながら復興状況について説明を受けた。以前は残されていた住宅の基礎部分は全て取り除かれ、震災前にあったものより高い防波堤の建設が進んでいた。帰宅困難区域を除き避難解除され復興は進んでいるように思われるが、除染作業は今もなお続けられている。実際に被災された方のお話を聞いたことはとても貴重な機会であった。視察後、参加者からは6年経ってやっと街づくりという次の段階に進もうとしていると感じたという声があった。



南相馬市小高区井田川地区の慰霊碑前で説明を受けている様子

## 8. 南相馬市ソーラー・アグリパーク

この施設は、津波被災地（市有地）を活用し、太陽光発電所と植物工場を舞台とした体験学習を通して、長期を要する福島の復興のために次代を担う地元の子供たちの成長を支援し、全国の人々との交流を行う復興拠点である。ここでは、太陽光発電や水力発電の仕組みについて、実際に身体を動かし体験した。参加者全員が



水力発電の仕組みを実際に体験している様子

太陽光パネルは見たことはあっても自分の手で触れたのは初めてであり、太陽の位置や角度により発電するエネルギーが変化をみるという貴重な体験ができた。また、水力発電の体験では、実際に身体を使って水車を回し発電を行うのと、ポンプで水をくみ上げ一気に放水し水車を回すのとではどのくらい発電する電力に違いはあるかの体験学習を行った。この施設だけではなく、再生可能エネルギーの普及、津波被災地の土地の活用のため海岸近くには多くの太陽光パネルが設置されていた。

高校生による「大好きな福島が誤解されて、悔しい」という思いから、食材付き情報誌『ふくしま食べる通信』の発行もしており、風評被害に苦しむ農家の方々のことも少し学ぶことができた。

## 9. 全体を通して

今回、ボランティア初経験者も数名おり、何度か福島を訪れたことのある参加者との意見交換や感想の共有ができ、新鮮で有意義な学びを深めることができた。複数回福島を訪れたことのある参加者からは、「年月が経った今は、テレビや新聞などでは節目にしか報道されなくなったが、まだ復興が進んでいない現実がある。」や「前回訪れた時には人の手が入っていなかった地域にも重機が入り景色が変わっていて、少しずつではあるが復興は進み始めている。」など、自分の経験と比較して視察を行うこともできたという意見も出された。

また、今回は仮説集会所での傾聴ボランティアや力仕事ボランティア活動だけではなく、現地のボランティアガイドや南相馬市立総合病院の医師、震災後に新エネルギーを事業に着手した会社の方など、様々な視点から震災当時の話を聞くことができたため、多角的に学びを深め、考えることにより自分自身やグループの成長にもつながったと感じる。

3月11日14時46分。原町区にある北泉海水浴場の堤防の上でサイレン音を聞きながら黙祷を行い、『6年前のこの時間に、ここで起こった』ことに想いを寄せ、遠く離れた奈良からだけではなく、『震災が起こった被災地・福島』で追悼する重要性も感じた。各々が「震災」について考える機会を持つことができ、様々な見方や意見をグループ内、また被災地の方を交えて深めることのできるこの活動はこれからも続けていきたい。

## 10. 協力

公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団  
福島県立医科大学災害医療総合学習センター  
南相馬市立総合病院  
南相馬市社会福祉協議会南相馬市災害復旧復興ボランティアセンター  
南相馬市ボランティアセンター「NPO法人 災害復興支援ボランティアネット」  
南相馬市観光協会  
南相馬ソーラー・アグリパーク  
農家民宿いちばん星